

第3回 保土ヶ谷区地区センター指定管理者選定委員会 議事録

日 時 : 平成17年6月23日(木) 10時00分～15時10分

場 所 : 保土ヶ谷区役所2階201会議室

出席者 : (委員)

井上委員長、安達委員、井上委員、今井委員、大本委員、小山内委員、小島委員、
齊藤委員

(事務局)

青木事務局長、丸山、小山

傍聴者 : (非公開審議)

次 第

1 委員長あいさつ

2 定足数の確認

【出席委員】

井上孝夫委員長、安達眞職委員、井上正昭委員、今井好雄委員、大本幹也委員、小山内いづ美委員
小島隆委員、齊藤勝敏委員

【欠席委員】

無

【定足数の確認】

合計8名のうち8名が出席

横浜市保土ヶ谷区地区センター指定管理者選定委員会要綱第4条第2項の規定を充足しており本
委員会は成立

※ 横浜市保土ヶ谷区地区センター指定管理者選定委員会要綱第4条第2項

「委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。」

3 議 事

(1) 第2回保土ヶ谷区地区センター指定管理者選定委員会議事録について

(事務局説明)

第2回保土ヶ谷区地区センター指定管理者選定委員会の審議内容について異議がなかったため、内
容を議事録として確定したい。

(審議結果)

議事録の内容について了承された。

(2) 第2回選定委員会での確認事項について

(事務局説明)

第2回選定委員会でいただいた質問のうち回答できなかったものについて、以下のように回答する。

質問1 経済局の財務分析結果は評点表に反映すべきだと考えるが、そのような方法はとれないか。

回答1 経済局経営金融課に依頼した各応募団体の財務分析の結果については、評価に反映すべきと判断したため、評点表の最下部に「財務分析結果」の欄を新設し50点の配点とし、合計点を300点とする。

経済局の財務分析結果は、A(良好)、B(おおむね良好)、C(一部問題あり)、D(問題あり)の4段階の評価がされるが、各団体の個別の理由により、財務分析不能である団体も存在する。それらの団体については、中間と評価することとし、以下の配点方法とする。

【A-50点、B-40点、評価不能-30点、C-20点、D-0点】

質問2 桜ヶ丘コミュニティハウスおよび瀬戸ヶ谷スポーツ会館については1団体のみ応募しかないが、この2施設の指定管理者は、この団体で決定ということか。

回答2 桜ヶ丘コミュニティハウス、瀬戸ヶ谷スポーツ会館については、1団体のみ応募しかなかったが、書類審査、面接審査は他の施設と同様に行い、指定管理者にふさわしい団体かどうかを審査する。その結果、委員の同意をもって、指定管理者にすべきかどうかを決定する。

(審議結果)

質問に対する回答内容について了承された。

(3) 評点表の訂正について

(事務局説明)

事務局より、評点表の訂正の説明を行った。

評点表項目「1-5 区内の他施設と積極的に連携し、また、利用者等の意見を施設運営に反映させる計画内容か」については、その部分を評価する内容を記載する応募書類(様式2-(4))について、事務局のミスにより、応募団体に対し誤った説明をしてしまったことが判明した(今井地区センターに応募する際のみ記載すればよいと説明してしまった)ため、今井地区センター以外の施設の評点表については、この項目1-5の配点を0点とし、290点満点とした。

(審議結果)

説明内容について了承された。

4 面接審査

(1) ほどがや地区センター指定管理者応募団体面接審査(応募受付順)

ア 保土ヶ谷区区民利用施設協会 (プレゼン、質疑応答含め30分間)

(ア) プレゼンテーション内容

・ 経営方針

①公平性を担保した管理運営 ②地域コミュニティの醸成への寄与 ③効率的かつ効果的な運営 ④安定した経営

・ 利用者ニーズの把握

新たに利用者会議を開催することとし、利用者ニーズの把握に努める。

- ・ 運営基本方針
 - ①地域リーダーの育成 ②地域愛を醸成する事業実施 ③利用者サービス向上
- ・ 自主事業について
 - ① 幅広い世代を対象に、世代を絞った事業と絞らない事業をうまくミックスして選定。
 - ② 幅広いジャンルの事業を展開。
 - ③ 利用団体の活動内容を把握し、団体と同じ内容の事業は行わないよう配慮。(団体の自主的な活動の芽を摘むことになるため)
 - ④ 流行にアンテナを張り、時代にあった事業を展開。
 - ⑤ 活動者数が少数である事業も行う。(短歌、長刀 等)
 - 利用者数の多い、ほどがや地区センターだからできる。
- ・ 管理運営費は、平成17年度予算をベースに実費計上。事務経費は委託料の5%(消費税、事業所税含む)。利用料金単価設定方法は、区見込み額と同額。

(イ) 質疑応答

Q: 保土ヶ谷区区政運営方針の内容は確認しているか。地区センターの管理運営にどのように反映させるのか。

A: 保土ヶ谷区ホームページで確認している。区政運営方針の内容をよく理解し、地域の活性化の一端を担えるような施設にしていきたいと考えている。

Q: 指定管理者制度の導入についてどのように考えているか。

A: 平成7年度から管理運営を行っているメリットを活かしたい。同時に、独占して管理運営をやらせていただいていたゆえの弊害等もあると思うので、制度導入を機に新たな気持ちで管理運営を行っていきたいと考えている。

Q: 新たに開催するという利用者会議とは、どのようなものか。

A: 利用団体・サークルが管理運営について意見を言う場。現在は利用者が多く調整がつかないという理由で行っていないが、今後は少なくとも年1回は行っていきたいと考えている。

Q: 応募書類の「様式6 収支予算書」について。事業費85万だけでなくニーズ対応費についても自主事業に使っていくということだが、予算的には問題ないのか。

A: 今までの事業実績から考えて、問題ないと思われる。

イ NPO法人 福祉かながわステーション横浜 (プレゼン、質疑応答含め30分間)

(ア) プレゼンテーション内容

- ・ ほどがや地区センターの経営方針基本五箇条
 - ① 利用しやすい施設運営 ②効率的、安定的な運営 ③保土ヶ谷区との連携 ④個人情報保護の徹底 ⑤施設運営上の関連法令の遵守
- ・ NPO法人としての活動実績

現在のところ活動実績はなし。しかし、会員個人で様々な活動を行っており、そのノウハウを結びつける施設運営を目指す。
- ・ サービス提供に関する考え方

CS (Customer Satisfaction) 活動を行うことにより利用者ニーズの把握に努め、サービスの品質の向上をはかる。

・ 自主事業について

子どもを含めた一般市民が参加できる多彩な事業を展開していく。ワンパクホリデーは必ず行う。

また、自主事業をとおして、区民の方々自らが主催し運用していく環境作りを構築することを最終目標としている。そのための3つのステップを考えている。①利用者に館の役割や自主事業内容を理解していただく。②子どもが参加できる自主事業を企画し、親子の連携をサポートできる環境の整備を行う。③自主事業に共感していただいた方々が自らサークル・グループをつくり行動する。

(イ) 質疑応答

Q：NPO法人としての活動実績は今のところないということだが、ほどがや地区センターの管理運営を行うために立ち上げた法人ということなのか。

A：他の活動も行っている。神奈川県で行う環境パートナーシップ促進事業に登録し、日本赤十字社のボランティアの支援等に応募している。

Q：NPO法人としての事業活動方針に、高齢者の就労促進という項目があるが、ほどがや地区センターの指定管理者になった場合は、館長等地区センターの職員には高齢者を充てるというお考えか。

A：必ずしもというわけではないが、元気な高齢者もいるので、そのようになる可能性は高いと思う。

Q：職員の配置について。現行は15人で管理運営しているが、9人という計画になっている。どのようなお考えか。

A：事業計画書に書かせていただいた人数は最低限の人数と考えている。人数は減ってもサービスは落とさないということを基本として、まずはやってみたい。

Q：職員のうちコミュニティスタッフは、ローテーションで実人数はもっと多いということか。

A：そのとおり。

Q：ほどがや地区センターの経営方針基本五箇条に「利用しやすい施設運営」とあるが、具体的にはどのような運営を考えているか。

A：視覚的な工夫をしたい。案内板等を利用者の方が見やすいようなものにすることが大事であると考えている。

また、地区センターを多くの方に使ってもらいたいと考えているため、「使いたくても使えない」という状況をなくすよう「改革」したい。

Q：自主事業については現年度と同様の事業を行うということだが、どういうことか。

A：ほどがや地区センターにおいては、利用者の方に親しまれた地域に根ざした良質の自主事業をすでに行っているため、我々が指定管理者になった場合であってもそれらの自主事業は残すべきで、今後、利用者のニーズを把握した上で新しい自主事業を検討していくことになると考えている。自主事業は、指定管理者の方から押しつけるべきものではないと思う。よって、応募書類ではそのように書かせていただいた。

Q：地区センターの指定管理者になるということで、何か不安はないか。

A：区の示した利用料金収入見込み額を上回る額を回収することができるかどうか最もあり不安材料だが、全力でやっていきたい。

(2) 西谷地区センター指定管理者応募団体面接審査（応募受付順）

ア 保土ヶ谷区区民利用施設協会（プレゼン、質疑応答含め30分間）

(ア) プレゼンテーション内容

・ 経営方針

①公平性を担保した管理運営 ②地域コミュニティの醸成への寄与 ③効率的かつ効果的な運営 ④安定した経営

西谷地区は、昔からの住民と戦後の宅地開発によって移り住んだ住民とが混在して地域コミュニティを形成しているため、特に②を重視していきたい。

・ 利用者ニーズ・地域ニーズの把握

利用者からの「声のポスト」（提案箱）を設けることにより、地域ニーズの把握に努める。

・ 地域、他施設との連携

西谷商店街が主催する「西谷フェスティバル」に場の提供を始め多方面での連携を行うことにより、地域との連携を図っていく。

5月15日に開館したばかりのくぬぎ台小学校コミュニティハウスとの連携もはかっていくことを考えている。

・ 防犯、防災について

防犯については、警備体制を定期的に点検し、職員にも周知徹底を図っていく。

防災については、地元消防署の協力を得て防災訓練を定期的に行っていく。

・ 自主事業について

① 指定管理者の目線ではなく、利用者の目線に立って自主事業を検討する必要があると考えている。

② 利用者の生の声を自主事業計画に反映させるためにアンケートを実施する。

③ 西谷地区は、昔からの住民と戦後の宅地開発によって移り住んだ住民とが混在して地域コミュニティを形成しているため、コミュニケーション不足が懸念される。自主事業を通してそれを解消していきたいと考えている。

④ 高齢者の利用者が多くなると思われるため、高齢者向けの事業も検討していく。

⑤ 新しい利用者の獲得のため、地区センターだよりで自主事業をアピールしていく。

⑥ 夜間利用が少ないため、夜間時間帯に自主事業を設定する。

⑦ 把握した利用者ニーズをいかにして自主事業に反映させるかを常に考えて計画する必要があると考えている。

⑧ 費用は民間カルチャーセンターの1/2にして低額に抑えている。

・ 管理運営費は、平成17年度予算をベースに実費計上。事務経費は委託料の5%（消費税、事業所税含む）。利用料金単価設定方法は、区見込み額と同額。

(イ) 質疑応答

Q：西谷地区センターの特徴はなにか。

A：相鉄線西谷駅から徒歩7分という立地条件の良さから、全区的に集客力は高いのは、ほ도가や地区センターと同じだが、ほ도가やよりも地域密着度が高い。ほ도가やが都市型、初音が丘、今井が地域密着型としたら、西谷は中間型と言えると思う。

また、利用者に高齢者が多いのも特徴だ。

Q：利用者アンケートを実施した結果、改善されたことはなにか。

A：利用申込方法について、利用日の1か月前の日から受け付けていたのを、利用日の前月の1日にその月分をすべて受け付ける方法に変更し、利用者の利便性をはかった。

Q：西谷商店街との連携について詳しくお聞きしたい。

A：西谷商店街が主催する「西谷フェスティバル」は、学校、町内会あがりのイベントであるため、2日間の地区センター全館開放、利用時間延長等、全面的に協力して、地域の活性化に努めている。

Q：区政運営方針をふまえた計画についてお聞きしたい。

A：支え合いという意識から障害者福祉団体のコーヒーショップ出店に場を提供している。また、横浜市の推進するG30への全面的協力、保土ヶ谷区地域振興課が行う「パソコンほどがや宿」への場の提供を行っている。

イ 特定非営利活動法人 建物管理ネットワーク（プレゼン、質疑応答含め30分間）

（ア）プレゼンテーション内容

・ 団体の概要について

平成17年2月設立総会、定款承認、神奈川県に申請、5月20日神奈川県から承認、6月1日設立。NPO法人としては設立したばかり。横浜建物管理協同組合の組合員39社で構成。現在、全組合員合わせて、横浜市内約50施設の管理、清掃等を行っている。

・ 指定管理者制度について

区民利用施設の管理・運営を行うことにより地域に貢献したいと考え、平成16年度に2施設の指定管理者に応募するも落選。選定されなかった原因を調査した結果、組合という形態は指定管理業務にはなじまず、指定管理者として指定を受けることは困難であり、地域に密着した活動を行うには、組合形態よりもNPO法人の方がよいと判断した。

今回応募するにあたり施設管理業務の経験者を新たに雇用し、指定管理部門を新設。万全の体制で望む所存である。

・ 自主事業について

子どもからお年寄りまで、幅広い世代に受け入れられる多彩な事業を企画している。例えば、自然の多い保土ヶ谷区ならではの、四季をテーマにした「写真教室」「絵画教室」。団地の多い西谷地区の特性を活かした未就園児の親子を対象とした「子育て広場」。仕事帰りの方を対象とした夜間時間帯の「ストレッチ教室」。高齢者が多いという地域の特性から、高齢者向けの「パソコン教室」など。

（イ）質疑応答

Q：区政運営方針をふまえた計画についてお聞きしたい。

A：安全、安心、快適に暮らせる場、コミュニケーションの場として、誰でも気軽に入ることの出来る地区センターを作っていきたいと考えている。

Q：今回の横浜市地区センター指定管理者の募集に対し、市全体でかなりの数の応募をしているとのことだが、どのくらいの施設に応募されたのか。

A：横浜市全体で37施設だ。

Q：以前に指定管理者に応募した時は選定されなかったとのことだが、その理由はどこにあったと考えるか。

- A：組合という形態では、組合のみの利益の追求を目的としていると捉えられ、選定を受けることは難しいと考えた。
- Q：今回、保土ヶ谷区内の地区センターのうち、西谷地区センターと初音が丘地区センターの指定管理者に応募していただいたが、なぜこの2館なのか。
- A：今回横浜市全体で79館の募集があった。すべてに応募する訳にはいかないという中で、規模、事業費の額を調査させていただいた。その結果、当団体では運営不可能と思われるセンターもあったため、当団体に運営可能と思われるセンターを選ばせていただいた。
- Q：地区センターの指定管理者になるということで、何か不安はないか。
- A：現行以上に利用率が上がるかどうか心配といえば心配だ。
- Q：その利用率を上げるために、何か検討している方策があるか。
- A：地区センター等区民利用施設の管理運営の経験者を雇用しているので、そのノウハウを活用していきたい。
- Q：管理運営費について、具体的にどの部分を削減することができるか。
- A：消耗品費の削減。また、省エネのノウハウを活かしたい。また、職員数についても検討している。夜間スタッフ2人、図書スタッフ、作業スタッフの必要性についてだ。清掃のノウハウがあるため清掃のための作業スタッフは削減できる。区の指定額と比較しても十分削減可能であると考えている。

(3) 初音が丘地区センター指定管理者応募団体面接審査（応募受付順）

ア 保土ヶ谷区区民利用施設協会（プレゼン、質疑応答含め30分間）

(ア) プレゼンテーション内容

- ・ 経営方針
 - ①公平性を担保した管理運営 ②地域コミュニティの醸成への寄与 ③効率的かつ効果的な運営 ④安定した経営
- ・ 地域の特徴

初音が丘地区は坂が多く、地理的にも国道16号線とJR東海道線とで分断された地域で個人住宅が多い。そのため、地域密着度が非常に高く、地域の関係者との関係を密にすることが最も重要である。
- ・ 地域ニーズ、利用者ニーズの把握

新たに利用者会議を開催し、また利用者からの提案箱を設けることにより、地域ニーズの把握に努める。
- ・ 他施設との連携

区内で唯一陶芸窯を保有しているため、他の地区センターで計画した陶芸教室などに場の提供をしている。

また、平成18年度以降に、狩場地区にコミュニティハウスの建設が計画されているため、開館以降、様々な連携がとることができるよう、準備していく。
- ・ 自主事業について

個人住宅が多い地域密着型の館であり女性利用者が多いという特徴を考慮し、4つのポイントに絞って自主事業を提案していく。「地区センターにあってよかった」と思える自主事業を企画して、利用者数増につなげていきたい。

① 立ち寄れる場所・プラットホーム事業

いつでも誰でも気軽に立ち寄れる場、誰かが迎えてくれる場をつくるということを目標に、毎月同じ場所同じ時間に一緒に何かを出来るような事業を提案。

② 地域の大人と子どもが交流

地域の大人と子どもに交流していただくことにより地域の活性化に寄与することを目標に、大人と子どもと一緒に何かをすることが出来るような事業を提案。

③ 地域で子育て・子育て支援事業

子育てに孤独になってしまっている母親に、子育ては地域で行うという意識を植え付けサポートすることを目標に、親子の交流が円滑にいく事業を提案。

④ 学ぶ楽しさ・生きがい教室

「60歳からはじめてのピアノ教室」など、新しいことにチャレンジする意欲を引き出すような事業を提案。

・ 防災について

緊急時の2次避難場所に指定されているため、区役所地域振興課と連携するように努める。

(イ) 質疑応答

Q：自主事業は誰が考えるのか。

A：利用者の方の意見を取り入れた検討をしている。受付等で利用者が気軽に職員に声をかけることの出来る環境になっているので、いろいろな声を聞くことができる。

Q：自主事業の参加率はどのくらいか。

A：個人学習ものは非常に人気があり2倍以上の倍率があるが、講師が地元の方なので柔軟に対応することができ、出来るだけ多くの利用者の方に参加していただくように調整している。

Q：他の地区センターに比べて自主事業が非常に多いが、他の地区センターでもこのくらい自主事業を企画することが出来ないのか。

A：各館固有の事情があり、全館同じ数の自主事業を企画するのは難しい。利用率が高く人手が足りず、正直いって自主事業まで手が回らないという館もある。

Q：「60歳からはじめてのピアノ教室」で使用するピアノは何台あるのか。

A：アップライトピアノが1台あるが、受講者は14人いるため、キーボードを1台購入した。ただし実際は紙鍵盤を利用している。紙鍵盤でも受講者の皆様は非常に真剣にやっている。講座自体の人気も非常に高く倍率は3倍以上だ。

Q：自主事業から生まれたサークルの優先申込みを6か月間認めている理由は。

A：当初は3か月間認めていたが、グループをまとめ上げてサークルとして活動していけるようにするまでは半年は必要と判断したため。館としてはサークルとなって利用者として定着してもらいたいと考えている。

Q：緊急時には2次避難場所に指定されているとのことだが、実際に緊急の連絡を受けたことはあるのか。

A：その事例はない。

Q：財政上の理由で、委託料が減少することもあると思うが、収入のあてはあるのか。

A：利用料金収入以外の収入はないが、支出を減少させるよう工夫する。管理運営費等については見積もり合わせを行うなどして縮減する。

イ 特定非営利活動法人 建物管理ネットワーク（プレゼン、質疑応答含め30分間）

（ア）プレゼンテーション内容

・ 団体の概要について

平成17年2月設立総会、定款承認、神奈川県に申請、5月20日神奈川県から承認、6月1日設立。NPO法人としては設立したばかり。横浜建物管理協同組合の組合員39社で構成。現在、全組合員合わせて、横浜市内約50施設の管理、清掃等を行っている。

・ 指定管理者制度について

区民利用施設の管理・運営を行うことにより地域に貢献したいと考え、平成16年度に2施設の指定管理者に応募するも落選。選定されなかった原因を調査した結果、組合という形態は指定管理業務にはなじまず、指定管理者として指定を受けることは困難であり、地域に密着した活動を行うには、組合形態よりもNPO法人の方がよいと判断した。

今回応募するにあたり施設管理業務の経験者を新たに雇用し、指定管理部門を新設。万全の体制で望む所存である。1日も早く指定を受けて地域に貢献したい。

・ 自主事業について

子どもからお年寄りまで、幅広い世代に受け入れられる多彩な事業を企画している。西谷地区センターにも応募しているが、西谷地区センターが交通の便がよく利用者が多いのに比べて、初音が丘地区センターは不便であるため、現在のところ利用者数が多いとはいえない。

このことから、西谷地区センターよりも自主事業を充実させて利用者の増加を図りたいと考えている。例えば、小学生囲碁教室、音楽リラクゼーション、折り紙教室、ヨーガ教室、版画教室など。

（イ）質疑応答

Q：自主事業を多くした理由を詳しくお聞きしたい。

A：鉄道の駅からも遠く交通の便が悪いため、地域住民の方の利用率をいかに上げていくかがポイントであるので、地域住民の方が通いやすい施設にしたいと考えている。そのために魅力的な自主事業をふんだんに取り入れ、より多くの利用者確保に努めたいというのが理由だ。

Q：自主事業の内容はどのように決めているのか。

A：子どもも含めた家族全員で楽しめるような事業をとすることを第一に考えて検討した。また、保護者の意見等も取り入れて、事業の内容を決定するということも考えていきたい。

Q：館長はどのような人選を考えているか。

A：人当たりがよく、地域にうまくとけ込んでいけるような人物が望ましいと考えている。

Q：館長等職員の選定方法は。

A：公募で考えている。ただ、経験のある人がよいという考えもある。副館長、コミスタは地元の方からの採用を考えている。

Q：新聞等で募集するという事は考えているか。

A：それも方法の一つであると考えている。

Q：自主事業について、全般的に回数が少ないような気がするが、もの足りないということはないか。例えば、「小学生囲碁教室」などは非常によい企画だと思うが、4回で終わってしまうのはもったいないのでは。4回にしたという理由はあるのか。

A：事業が終わってしまっても、事業を通して興味を持ってもらえれば、自主的に続けていっ

てもらえるのではと考えている。利用者に新しいことにチャレンジしてもらおうという土壌を作ることも地区センターの努めのひとつだと考えている。また企画してもらいたいという強い希望があれば次年度に再度企画することも当然考えられる。ちなみに4回という数字には特別の理由はない。

Q：もっと講座を増やして欲しいという要望があった場合はどのように対応するか。

A：出来る限りご要望にお応えしたいと考えているが、利用者の皆様に自主的にサークル等を作ってもらって、地区センターをどんどん利用してもらいたいという思いもある。

Q：職員研修の内容を具体的にお聞きしたい。

A：大きく分けて4つの研修を考えている。

- ① 接遇研修（挨拶ができるかといった、利用者のニーズに応えられる職員を育成する研修）
- ② 生涯学習研修（利用者の相談等にも対応できるような職員を育成する研修）
- ③ 人権研修（人権に配慮した管理運営を行える職員を育成する研修）
- ⑤ 実務研修（OJT、ロールプレイング等の日常業務の習得に関する研修）

Q：現在、中区に事務所を構えているとのことだが、指定管理者に指定された場合、地区センター管理運営事務を行う事務所はどのようになるか。

A：中区の現在の事務所で行うことになる。

5 講 評

(1) ほどがや地区センター応募団体

ア 保土ヶ谷区区民利用施設協会

これまでの経験と実績に基づく、地域とともに新しい文化を創造する事業、次代を担う子供を育成する視点を盛り込んだわんぱくホリデー事業などを含む、多彩で質の高い自主企画事業の提案が優れていた。

サービス向上については、会議室利用の柔軟な対応などの提案が評価できる。

また、蔵書検索システムの導入に伴い、図書担当スタッフの減員を提案することなど管理に係る経費縮減の工夫もなされていた。

これら全体をとおしてサービスの質の確保・向上及び地域コミュニティの醸成を目的とした運営が期待でき、ほとんどの評価項目について他の団体より優れていた。

イ 特定非営利活動法人 福祉かながわステーション横浜

高齢者に対する就労支援策の一環として、人生経験が豊富な高齢者を有効に活用するとして運営計画が提案された。団体の設立目的が、高齢者福祉への貢献としていることから、情熱と意欲は感じられたが、組織体としての収支予算、人員体制の確保などの基本的部分に少々粗さがみられた。

(2) 西谷地区センター応募団体

ア 保土ヶ谷区区民利用施設協会

公の施設における公共サービスのあり方を認識し、あまねく公平なサービスを提供するとして提案が優れており評価できる。

サービス向上については、会議室利用の柔軟な対応などの提案が評価できる。

また、蔵書検索システムの導入に伴い、図書担当スタッフの減員を提案することなど管理に係る

経費縮減の工夫もなされていた。

これら全体をとおしてサービスの質の確保・向上及び地域コミュニティの醸成を目的とした運営が期待でき、施設管理・運営面に手堅さがあり、他の団体より優れていた。

イ 特定非営利活動法人 建物管理ネットワーク

地域に対する考え方や理解については、計画に実行性があると感じられ安心感があった。特に、館の特徴を的確に把握して練られた自主企画事業については、他の候補者に比べて一歩先んじており、評価できる。施設管理の点でも、団体を構成する各企業の実績を軸に、効率性の高い積極的な提案が行われ、全体的にバランスのとれた事業計画であった

(3) 初音が丘地区センター応募団体

ア 保土ヶ谷区区民利用施設協会

これまでの経験と実績に基づく、地域とともに新しい文化を創造する事業、次代を担う子供を育成する視点を盛り込んだわんぱくホリデー事業などを含む、多彩で質の高い自主企画事業の提案が優れていた。

また、公の施設における公共サービスのあり方を認識し、あまねく公平なサービスを提供するとした提案が優れており評価できる。

サービス向上については、会議室利用の柔軟な対応などの提案が評価できる。

また、蔵書検索システムの導入に伴い、図書担当スタッフの減員を提案することなど管理に係る経費縮減の工夫もなされていた。

これら全体をとおしてサービスの質の確保・向上及び地域コミュニティの醸成を目的とした運営が期待でき、施設管理・運営面に手堅さがあり、他の団体より優れていた。

イ 特定非営利活動法人 建物管理ネットワーク

地域に対する考え方や理解については、計画に実行性があると感じられ安心感があった。特に、館の特徴を的確に把握して練られた自主企画事業については、その理由が述べられた上に多種多様な提案がなされるなど、指定管理者制度の趣旨が考慮された計画であった。その他の点でも、団体を構成する企業の機動力を背景にした有効策を打ち出しており、全体的にバランスのとれた事業計画であった。